

皆様おはようございます。

9月最後の礼拝の時となりました。今年もあと3か月。お彼岸と共にすっかりと秋の風が吹くようになったように思います。朝晩は肌寒いほどになりましたが、寒い冬の来るまで、青空とやがて来たる紅葉の時期を楽しみたいと思います。

今日からヤコブ書も2章に入ります。1章では、「いろいろな試練に合った場合、それをむしろ非常に喜ばしいことと思いなさい。あなたがたの知っているとおりに、信仰がためされることによって、忍耐が生み出されるからである」との御言葉がありました。

また「すべての汚れや、はなはだしい悪を捨て去って、心に植えつけられている御言を、すなおに受け入れなさい。御言には、あなたがたのたましいを救う力がある。そして、御言を行う人になりなさい」との御言葉がありました。

また、「完全な自由の律法を一心に見つめてたゆまない人は、聞いて忘れてしまう人ではなくて、実際に行う人である。こういう人は、その行いによって祝福される。」とありました。イエス様を私たちに与えて贖いを成して下さった神様のご愛を覚え、赦しと救いと聖霊による自由と愛を頂いたものとして、「父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まらずに、身を清く保つことにほかならない。」との信心に進むことを教えられました。

2章ではより具体的に、「父なる神のみまえに清く汚れのない信心」とは何か語られます。

1 わたしの兄弟たちよ。わたしたちの栄光の主イエス・キリストへの信仰を守るのに、分け隔てをしてはならない。

この今日の個所では神様が露骨にご自身の望まれることと望まれないこととははっきりと語っておられます。

ここでは人を「分け隔てる」ことについて、主ははっきりと明確に退けておられます。それは「わたしたちの栄光の主イエス・キリストへの信仰」を守る上で全く釣り合わないものと語られます。

分け隔てるとは、人を自分の好き嫌いで差別することであり、自分勝手にある人を他のある人よりもより良い人として扱うことを指します。

この事から、「わたしたちの栄光の主イエス・キリストへの信仰」であり、神様のゆるぎない信念として、「公平」さを神様は大切にされるということを学びます。

2 たとえば、あなたがたの会堂に、金の指輪をはめ、りっぱな着物を着た人がはいつて来ると同時に、みすぼらしい着物を着た貧しい人がはいつてきたとする。

3 その際、りっぱな着物を着た人に対しては、うやうやしく「どうぞ、こちらの良い席にお

掛け下さい」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこに立っていなさい。それとも、わたしの足もとにすわっているがよい」と言ったとしたら、

4 あなたがたは、自分たちの間で差別立てをし、よからぬ考えで人をさばく者になったわけではないか。

会堂に多額の献金をして下さるのは富む人かもしれません。富んでいる人は社会的にも影響力を持つ人なのかもしれません。しかしだからと言って、ここにありますように、ある人にはうやうやしく「どうぞ、こちらの良い席にお掛け下さい」と言い、ある人には、「あなたは、そこに立っていなさい。それとも、わたしの足もとにすわっているがよい」というのは、「分け隔て」であり、「わたしたちの栄光の主イエス・キリストへの信仰を守るのに」相応しくないとはっきりと語られています。

人をそういう風な眼で判断すること。つまり自分にとって有用か否かという損得勘定、打算的な考えで判断し、人の優劣を決めること。これは「わたしたちの栄光の主イエス・キリストへの信仰をまもる」のに、相応しくないのです。

「あなたがたは、自分たちの間で差別立てをし、よからぬ考えで人をさばく者になったわけではないか」。

良からぬ考えとは、よこしまな、邪悪な、不正な、悪い、罪深い考えを意味します。人をそのように、一段下に置いたり一段下に置いたりすること、そうやって分け隔てをしたり差別をすることは悪だ、よこしまだ、罪深いと聖書ははっきりと告げています。

得てして私たちは、有力者とパイプを結びたいとか、有力な支援者を求めたいとか考えます。もうすぐアメリカでも大統領選挙が行われますが、勝つか負けるかの熾烈な中では、それぞれの陣営が少しでも相手を出し抜くためにはどんな手でも使うものと思います。そういう中では有力者と手を組むことが何よりも大切なこととなるのでしょうか。

5 愛する兄弟たちよ。よく聞きなさい。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富ませ、神を愛する者たちに約束された御国の相続者とされたではないか。

6 しかるに、あなたがたは貧しい人はずかしめたのである。あなたがたをしいたげ、裁判所に引きずり込むのは、富んでいる者たちではないか。

7 あなたがたに対して唱えられた尊い御名を汚すのは、実に彼らではないか。

聖書はここでも信仰について語ります。

神様は「この世の貧しい人たちを選んで信仰に富ませ、神を愛する者たちに約束された御国の相続者とされた」のでした。

聖書は深く、私たちの心の中を探り、いかに私たちが神様を信じて頼ることなしにすべての事をしようとしていたか、的外れで自分勝手に、神無くして進もうとする貧しいものであったかを語っています。神様には不可能なことはありません。贖いといのちの源泉であり、私たちの目に見えるものすべてを神様は目に見えないお口のお言葉によって創造なさいました。

人は周囲にいる人たちに頼ろうとする前に、この創造者なるお方に頼るべきです。わたくしたち神様から離れて罪に死せる、貧しいものが今富む者とされ、赦しと命を頂いているのは、唯々主の憐れみであり、贖いの主イエスキリストのお陰であることを私たちは知らなければなりません。

6 しかるに、あなたがたは貧しい人はずかしめたのである。あなたがたをしいたげ、裁判所に引きずり込むのは、富んでいる者たちではないか。

7 あなたがたに対して唱えられた尊い御名を汚すのは、実に彼らではないか。

富む者が、自らの富に酔い、権力をかざして政敵をことごとく抹殺し、権利をかすめ取る存在なのではないか。富む者こそが、力により頼み、自らのために私たちが用済みとあれば私たちを見限り、私たちを敵とすれば資金力の限りを尽くして私たちを裁判の場にまで追いやって抹殺しようとするものではないか。私たちは魂の奥にあって、神様を第一として生きる人を大切にするのか、それともお金と権力を第一とする人と共に生きるのか、そういうことをこの聖書の箇所は私たちに語っているのではないのでしょうか。

マタイ 5:3 「こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。

5:4 悲しんでいる人たちは、さいわいである、彼らは慰められるであろう。

私たちが殺伐としたこの世の中を、自分の即説くばかりに目を向けて、他を押しつけて自分の王国を打ち立てようとする人たちの勢いにははるか負ける者であるかもしれません。そうして私たちはあるいは貧しい者、欠乏する者、悲しむ者と甘んじている立場の者であるかもしれません。世の中から孤立して、独立独歩、ただ目には見えない神様だけを頼みとするという姿勢は、変り者とのそしりを受ける者であるかもしれません。しかしそれでよいのです。私たちの力は、そこにこそあるのです。そしてそれは私たちの確かな力なのです。

か。

2:8 しかし、もしあなたがたが、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」という聖書の言葉に従って、このきわめて尊い律法を守るならば、それは良いことである。

9 しかし、もし分け隔てをするならば、あなたがたは罪を犯すことになり、律法によって違

反者として宣告される。

10 なぜなら、律法をことごとく守ったとしても、その一つの点にでも落ち度があれば、全体を犯したことになるからである。

11 たとえば、「姦淫するな」と言われたかたは、また「殺すな」とも仰せになった。そこで、たとえ姦淫はしなくても、人殺しをすれば、律法の違反者になったことになる。

12 だから、自由の律法によってさばかるべき者らしく語り、かつ行いなさい。

律法を守るということに対して、神の民は苦心奮闘してきました。それが神様を信じる者の生命線であり、生き方でした。しかし同時に律法は、皮肉なことですが、人間がそれをどんなにか守り切れないものであるという弱さを突き付けるものとなりました。

全ての律法を守り行う者は一人もいませんでした。

ローマ 3:10 次のように書いてある、／「義人はいない、ひとりもない。

3:11 悟りのある人はいない、／神を求める人はいない。

3:12 すべての人は迷い出て、／ことごとく無益なものになっている。善を行う者はいない、／ひとりもない。

3:13 彼らののどは、開いた墓であり、／彼らは、その舌で人を欺き、／彼らのくちびるには、まむしの毒があり、

3:14 彼らの口は、のろいと苦い言葉とで満ちている。

3:15 彼らの足は、血を流すのに速く、

3:16 彼らの道には、破壊と悲惨とがある。

3:17 そして、彼らは平和の道を知らない。

3:18 彼らの目の前には、神に対する恐れがない」。

12 だから、自由の律法によってさばかるべき者らしく語り、かつ行いなさい。

自由の律法。それは律法を行えば私たちは正しいものであり、自由であるという考え方を神様が新しくして下さったことによります。

私たちは律法を守り行うことの出来ない弱く貧しいものですが、そして悲しみ、無価値なものですが、主は憐れみをもって贖いによってただ無条件に、キリストの贖いによる神様の賜物を信じる者に救いと命を与え、正しいものとし、命と救いと自由を与えて下さったというものです。そして主の贖いの血潮によって赦され続ける者であり、そのご愛と恵みに応答する結実の生活、神様の愛に応答し、イエス様の足跡に従う歩みをする事が出来るようになった私たちのうちに神様は豊かに実を实らせてくださるということを信じる事が出来るのです。

ヨハネ 15:12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

15:13 人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

15:14 あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

15:15 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

15:17 これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。

2:13 あわれみを行わなかった者に対しては、仮借のないさばきが下される。あわれみは、さばきにうち勝つ。

ローマ 8:32 ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあるのか。

8:33 だれが、神の選ばれた者たちを訴えるのか。神は彼らを義とされるのである。

8:34 だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである。

8:35 だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。

8:36 「わたしたちはあなたのために終日、／死に定められており、／ほふられる羊のように見られている」／と書いてあるとおりである。

8:37 しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。

8:38 わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、

8:39 高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。

ですから、やはり神様の事を考えれば考えるほど、私たちは弱く乏しく、ただ神様の憐れみ

にのみあって今があるということが分かるのです。死も裁きも、神の愛から私たちを引き離すことは出来ないのです。こういう愛を頂いた時、私たちは、どのように人と接し行くべきかは明白です。私たちは、世の中から見捨てられた、私たちに何のお返しも出来ない方々をこそ、私たちににとって尊い方々として出会うことを喜びとすべきであり、力ある人たちにへつらい媚びることが生きる道ではないことを悟るのです。

憐れみは裁きに打ち勝つ。裁きを上回る主の深い憐れみを頂き、赦されたものとして、大胆に、神様の深い憐れみを指し示し、証しし語る者でありたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。この世界の創造者であり、この世界全ての主であり王であるお方の信念は、貧しきものを信仰に富ませ、神の国の相続者として下さるお方であり、赦しを与え、自由を与え、裁きよりも憐れみを先行させてくださるお方ですから、感謝いたします。どうかそのあなたの慈しみと憐れみを常に忘れずに、私たちが偽りを求めることがないように今週もお守りください。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン